

建物超寿命化支援企業の  
株式会社シゲル・コーポレーションが  
毎月発行する瓦版です

# NEO



こんにちは

【建物超寿命化支援企業】株式会社シゲル・コーポレーション社長の増村文武です。

さて当社は本年も、10月13日・14日の2日間に渡り新潟市産業振興センターで開催されますビジネス見本商談市「にいがたBIZ EXPO 2022」に出展することとなりました。本年は一昨年、昨年に引き続き3回目のチャレンジとなります。

今回の当社出展キーワードは『涼しく過ごしたい!省エネ! 節約!』です!!

常態化してきた猛暑や大雨の中で、社員や居住者の皆さんを暑さや漏水から守り、省エネ・節約に繋がる建物改修工事の御提案をさせていただきます♪

当社は、情報発信・提案力で防水業界No.1を目指し、今後もお客様にお役立ていただけるさまざまな有益情報の発信に努めてまいります。当日はぜひ、ご来場をお待ちしております。



◎すべては自分の心持ち次第...

▲文・絵：ことだま千絵子

## 新社名の由来について

2022年6月1日から、株式会社シゲル・コーポレーションへ社名が変わりました(旧社名茂興業株式会社)。社名が変わり2か月が過ぎ、社員も電話口であたふたすることが少なくなりました。先日にお客様から、新社名の由来について聞かれることがありましたので、今回は新社名に込めた思い・由来についてお話させていただきます。

## 今月のトピックス

### I 新社名の由来について

### II BIZ EXPO2022出展のお知らせ

※同封チラシをご確認下さい

#### ①シゲル・コーポレーションのシゲルは、旧社名より引き継いだもの。

創業以来56年、先輩社員の皆様によって培われ長年お客様にも親しまれてきました旧社名『茂興業株式会社』の信頼・実績・イメージを引き継ぎくかたちで、漢字からカタカナに生まれ変わりましたが新社名にでも引き続き使用いたしました。

シゲル=茂る=事業がますます繁栄・発展する、そんな願いも含めております。

※尚、旧社名の茂興業の茂は、当社を創業された第一代目社長安藤茂さんのお名前からとったものです。



▲ 創業当時

#### ②コーポレーションについて。

コーポレーションの本来の意味は、法人あるいは株式会社という意味の英語ですが、新社名にこの言葉を使用した意味合いとして下記の通りです。

当社が目指す建物超寿命化支援企業の旗のもとで、これから先の未来に向けて、より一層に当社の4つの社会的使命を果たしながら、事業分野の幅広い拡大と発展をしていける会社になりたいという思い込めています。

尚、コーポレーションではなく、コーポレイションとしたのは、本来の英語読みにより近づけた発音イメージにしたかったこと、また、レイとすることで名称の後半も間延びせずに締まった音節のイメージにしたかったことが理由です。



▲ 社員集合写真(2022年春撮影)

Our Business Philosophy  
当社の経営理念

当社は  
建物超寿命化支援企業  
を宣言します

1 半世紀培った防水関連技術を通して  
建物を安全・安心に100年維持し  
新たな付加価値創造にも寄与するトータルサービス  
(調査・提案・施工・アフターサービス)を提供します

2 当社は4つの社会的使命を果たし  
品質・サービス 防水業界No.1  
社員の幸福度 防水業界No.1  
の会社を実現します

3 当社の4つの社会的使命  
1. 建物の長寿命化を支援します  
2. 建物の安全対策を支援します  
3. 屋上の有効活用を支援します  
4. 環境の負荷低減を支援します

▲ 当社の経営理念

# 荻昌弘さんを愛してやまない俺ちゃんのシネマコラム

## 連載第52回 今月のテーマ『作家や漫画家にふりかかる、とんだ災難』

自称、シゲル・コーポレーション内で一番の映画好き、増村文武です。



★今月のイラスト➡  
『大好きです オーストラリアワイン🍷』

8月公開作品では何とんでも『キングダム2 遙かなる大地へ』!!! 劇場で鑑賞するに相応しい血沸き肉躍る高揚感🍷 第一作の流れを受けつつ更に魅力ある新キャラ登場に早くも次作が待ち遠しい🎵 そして『ジュラシック・ワールド/新たなる支配者』 過去作品に登場の俳優陣大集合、おなじみのT-REXやラプトルと共に新たなる新恐竜も合流し、こちらもやはり大画面・大音響で鑑賞するにふさわしい大迫力な娯楽作品でした👍

さて連載第52回目、今月のテーマは『作家や漫画家にふりかかる、とんだ災難』です📺 クリエイティブな職業の主人公が予想外の災難に見舞われるテーマの映画って、実は結構多いんですね 私も毎回本稿の締切に追われプチ作家気分を味わいながらの毎月ですが、今回もそんな中選りすぐりの3本を御紹介👏



★毎月掲載している挿絵はこちらからもどうぞ。

### ①『キャラクター (2021年 日本映画)』

セカオワのFukaseが強烈極まりない特異な殺人鬼を演じた狂気の話作👁️ 菅田将暉演じる主人公の青年は愛する妻と慎ましい生活を送りながらプロの漫画家を志していますが、本来の人の好きから漫画のテーマとして扱っている猟奇殺人という内容についてリアリティをもった描写が描けず夢をあきらめようとしていました。しかし偶然に実際の猟奇殺人現場に遭遇し犯人を目撃したことから、その殺人犯をモデルに再び漫画を執筆し、やがて一世を風靡する売れっ子漫画家にまで躍進します📄。しかし彼が描いた漫画が予告したように猟奇的な連続殺人が繰り返され、ついに彼の”ファン”であるFukase演じる殺人犯が、主人公の前に再び登場し彼に究極の選択を迫ります… Fukaseが本来は難しいであろう役柄になぜか絶妙にはまりすぎ〜 ”キャラクター”が本作の題名となっている本当の意味については、ラストで明かされる殺人犯の特異な境遇を知ることによって、鑑賞者側の我々に静かに残酷に語り掛けてくるはず👁️

### ②『フッテージ (2012年 アメリカ映画)』

題名となっている”フッテージ” どんな意味か調べますと『撮影されたままの未編集の映像』とのこと📺 イーサン・ホーク演じる主人公のノンフィクション作家エリソンは、妻と二人の子供と共に郊外の一軒家へ引っ越してきます🏠。しかしその家は以前に家族が惨殺される恐ろしい事件が起きたいわくつきの家であり、彼が引っ越してきた本当の目的は、事件の真相を調べた上で本を書き、作家として再び成功するためなのでした。屋根裏で未編集の8mmフィルムと映写機を発見した主人公ですが、そこにはとてつもなく恐ろしい映像が記録されていて、その謎を探ることで自らの家族にも不吉な死の予兆が迫ってくるのでした… 本作、往年の映像記録媒体である8mmフィルム特有の独特な映像が、ノンフィクション的な薄気味の悪さを助長し、後味も限りなく悪い一本に仕上げられています👁️。しかしながらこの映像の中に隠された謎解きを主人公と共に体感していく展開が巧妙で、私的に映画としての完成度を高く感じる印象深い一本なのでした👁️。

### ③『ミザリー (1990年 アメリカ映画)』

スティーヴン・キング原作の同名小説を映画化📺 幽霊よりも怪物よりも間違いなくやっぱり人間が一番怖いことをあらためて知らしめてくれる一本👁️。ロマンス小説『ミザリー』の作者である作家ポールは、郊外を単独で移動中、雪の中で不測の自動車事故に遭い身動きが取れないほどの重傷を負います👁️。しかし事故現場の近くに住みポールの熱狂的なファンである元看護婦の女性アニーに偶然助けられ、彼女の自宅で看病を受けることに 献身的に看護をするアニーでしたが、ある時ポールが温めていた彼女お気に入りの『ミザリー』最新作の原稿を見せられたアニーは、その内容に不満を抱き原稿を燃やすようポールに強要します👁️。ポールは次第に彼女が持つ狂気に気づき始めるのですか… 起承転結が良くまとまっていてテンポも良く、終盤にかけていよいよ急激に高まる不条理な恐怖感が秀逸な一本👁️。地上波の洋画劇場でよく放映されたこともあったので一度はご覧になられた方も多いのでは👁️。本作でまさかのアカデミー主演女優賞を受賞したアニー役キャシー・ベイツの鬼気迫る演技 治りかけの足に打ち放つ金槌は、観る者にトラウマを植え付けるには十二分すぎます👁️。

もし御興味が沸いてきましたら、皆様もぜひ一度御鑑賞を (^\_-)☆

